

会議概要附属機関等の名称 安曇野市上下水道事業経営審議会

1	会議名	令和5年度 第2回 安曇野市上下水道事業経営審議会
2	日時	令和5年10月30日(月) 午後2時から午後3時まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎 307会議室
4	出席者	保尊委員、二木委員、猿田委員、土肥委員、黒岩委員、赤沼委員、齋藤委員、加々美委員、中村委員、田中委員
5	市側出席者	丸山上下水道部長、竹内経営管理課長、中田上水道課長、中田課長補佐兼下水道担当係長、高山下水道担当係長、豊田管理係長、重野課長補佐兼維持係長、曾山工務係長、中嶋庶務担当係長、西山庶務担当係長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和5年11月20日

協議事項等

○会議の概要

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議事
 - (1) 令和4年度安曇野市水道事業会計決算報告について
 - (2) 令和4年度安曇野市下水道事業会計決算報告について
 - (3) 令和4年度安曇野市水道ビジョン事業評価について
 - (4) 令和4年度安曇野市下水道経営戦略事業評価について
 - (5) その他
- 4 その他
- 5 閉会

○議事の概要

- (1) 令和4年度安曇野市水道事業会計決算報告の説明
(資料に沿って事務局から決算概要により説明)
特に質疑なし
- (2) 令和4年度安曇野市下水道事業会計決算報告
<質疑>
委員：マンホールカードはどのくらい一般の方に配布されているか。
事務局：令和3年度には3,000枚を、令和4年度は、約2,000枚を配布している。今年度については、令和5年度8月末時点で1,200枚を配布している。
- (3) 令和4年度安曇野市水道ビジョン事業評価の説明
<質疑>
委員：(水道ビジョン) 評価シートでCの部分が2カ所あるが、これについて予定どおり進まなかった経過の理由、それから解消を進めているか、また今後の見通しはどうか。
事務局：一つについては、指定避難所等重要給水施設への給水ルートへの耐震化で、目標が49%だったが、今現在40.75%という数字である。Cという判定をさせて頂いたが先ほどもお話ししたとおり、計画としては今のところ順調に進んでいる。今後も引き続き計画的に、また、新しいルートの検討

等々を併せてやっていければと考えている。もう一つについては、水道利用者のニーズの把握ということで、4年度の市民調査の中で、アンケートとして、水道に関することを取り入れるよう要望したが、枠に入れず総合計画に関するアンケートを行うこととなった。そのようなことで昨年は載せることができなかったが、引き続きそういった形のアンケートの中で市民の方のニーズを把握できればと考えている。

(4) 令和4年度安曇野市下水道経営戦略事業評価の説明

特に質疑なし

(5) その他

<質疑>

委員：2点質問がある。1点目は決算書の67ページの一番下の令和5年3月発行の企業債だが、34,800千円の利率が1.3%となっている。他の令和年代の利率を見ると1.0%以下となっているが理由を知りたい。

もう1点、松本市から下水流入する話を聞いたことがあるが、当然これを流入するとなると安曇野市の管を使うと思うが、どういう形で流入接続させるのかお聞きしたい。

事務局：まず、二点目の質問についてお答えする。波田地区の汚水を梓川を跨いでこちらの流域へ接続するもの。こちらの接続管路は、流域下水道の梓川幹線という管路で、場所というは倭橋から西山にかけて流域の管がある。梓水苑の辺りに管がわたってくるのではないかと聞いている。最終的には市の管を使うのではなく、長野県が整備した流域下水道の管と、波田地区の管を使ってアクアピアの方へ流れてくるということで聞いている。

委員：波田地区が流域に入ることによって安曇野市のメリットはあるのか。

事務局：現在、松本市と安曇野市が県にお支払いしているお金については、県建設負担金と維持管理負担金の2本立てでお支払いしている。100の予算とした場合、概ね90対10で安曇野市が90である。当然処理面積が大きいためである。松本市の分については、梓川の分で概ね10となる。将来的な話になると波田地区の面積に関しては400数十ヘクタールと聞いている。今の安曇野市の負担が90からどの位下がるか今のところ分からないが、概ね85とすると、松本の部分については波田地区が増えることにより10から15くらいに増えるのではないかと考えている。

委員：決算書で4年度は給水収益が減となっているがこれは人口の減少によるものか。下水道使用料については増えているが水洗化率の向上によるものかお聞きしたい。

事務局：給水収益の減少については、人口の減少や大口の会社の水の加減が違うと何百 m^3 違ってくる。人口の減少が主なものではあるが、そういった傾向で減ってきているものである。逆に下水道使用料が伸びている原因として高家に新しい工業団地ができてそこが動き出したということ。中には井戸水を使って下水に流しているという企業もあり、水道は伸びないが、下水は伸びているという状況である。

事務局：先ほど保留になっていた企業債の関係だが、財務省から当初借りる前に指定されている利子ということで記載されている。また長期金利の見直しということの経過のものである。

委員：決算書69ページの公共事業の資本費平準化債の4年度の利率が1%となっている。同じ財政融資で借りている先ほどの1.3%となぜ違うのか。

事務局：資本費平準化債の償還期間より先程の1.3%で計上されている企業債は償還期間が長いことから利率も大きくなっている。